

C 現在の実施種目からみる 過去のスポーツ経験と 今後の希望

愛知東邦大学 経営学部
准教授 大勝 志津穂

はじめに

ウォーキングや体操などの技術や仲間をあまり必要としないエクササイズ系種目実施者と、サッカーや野球、バスケットボールなどの技術や仲間を必要とする集団球技系種目実施者では、過去のスポーツ経験に違いはあるだろうか。また、今後の運動・スポーツ実施について、どのように考えているのだろうか。本稿では、過去1年間の運動・スポーツ実施者のうち、サッカーや野球、バスケットボールなどの集団球技系種目^{※1}を実施した者（以下、球

技系実施者）と、ウォーキングや体操などのエクササイズ系種目^{※2}を実施した者（以下、エクササイズ系実施者）を抽出し、非実施者も加えた3つのカテゴリー^{注1}における過去のスポーツ活動歴^{注2}と今後のスポーツ実施の意向について分析した。

※1 集団球技系種目：サッカー、野球、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、ソフトバレー、フットサル、ハンドボール、ラグビー

※2 エクササイズ系種目：ウォーキング、体操、散歩

C-1 分析対象者の属性

表C-1に、球技系実施者、エクササイズ系実施者、非実施者の属性を示した。性別をみると、球技系実施者は男性が約8割であるのに対し、エクササイズ系実施者は女性が約6割、非実施者は女性が5割強であった。年代をみると、球技系実施者は20歳代が35.7%で最も多く、次いで30歳代28.0%、40歳代22.0%となった一方で、エクササイズ系実施者は、60歳代が26.1%で最も多く、次いで70歳以上18.9%となった。非実施者は、50歳代、60歳代のそれぞれが2割程度存在し、20歳代が12.1%と最も少なかった。

平均年齢をみると、球技系実施者が36.1歳と若く、

エクササイズ系実施者は54.3歳、非実施者は51.8歳と50歳を超えている。職業では、いずれのカテゴリーにおいても「勤め人」が多いが、球技系実施者では6割を超え、エクササイズ系実施者および非実施者は3割程度であった。また、エクササイズ系実施者では、「専業主婦・主夫」「学生・無職・その他」が2割を占めた。すなわち、球技系実施者は、男性で比較的若い勤め人が多く、エクササイズ系実施者は中高年者が多い傾向にある。非実施者は、男性よりも女性が多く、若年層がわずかに少ないものの、年代による偏りはあまりなく、各年代に一定の割合で存在している。

【表C-1】 分析対象者の個人的属性

	球技系実施者 (n=378)		エクササイズ系実施者 (n=2,095)		非実施者 (n=1,327)	
	n	%	n	%	n	%
性別						
男性	298	78.8	855	40.8	581	43.8
女性	80	21.2	1,240	59.2	746	56.2
年代						
20歳代	135	35.7	175	8.4	161	12.1
30歳代	106	28.0	287	13.7	208	15.7
40歳代	83	22.0	346	16.5	221	16.7
50歳代	38	10.1	346	16.5	254	19.1
60歳代	15	4.0	546	26.1	248	18.7
70歳以上	1	0.3	395	18.9	235	17.7
平均年齢(標準偏差)	36.1歳	±12.08	54.3歳	±15.77	51.8歳	±16.77
職業分類						
自営業・家族従事者	49	13.0	300	14.3	210	15.8
勤め人	253	66.9	633	30.2	461	34.7
専業主婦・主夫	14	3.7	449	21.4	235	17.7
パートタイム・アルバイト	18	4.8	292	13.9	180	13.6
学生・無職・その他	43	11.4	420	20.0	240	18.1
無回答	1	0.3	1	0.0	1	0.1

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012、2016)

C-2 過去のスポーツ活動歴

各カテゴリーにおける過去のスポーツ活動歴について、学校運動部活動や地域のクラブ・サークルなど、何らかのスポーツ組織への加入経験をみた(図C-1)。小学校・中学校・高校の学校期でいずれも非加入だった者(非加入率)は、非実施者が36.8%、球技系実施者が4.8%と大きな違いがあった。すなわち、現在、運動・スポーツを実施していない非実施者の約4割が、小中高のいずれの学校期でもまったくスポーツ組織に関わっていないことが明らかとなった。一方で、現在、球技を実施している者の9割以上が、過去何らかのスポーツ組織に関わっていたことも明らかとなった。この結果は、青少年期におけるスポーツ組織との関わりが、成人期以降の球技系種目の実施と関連する可能性を示唆している。

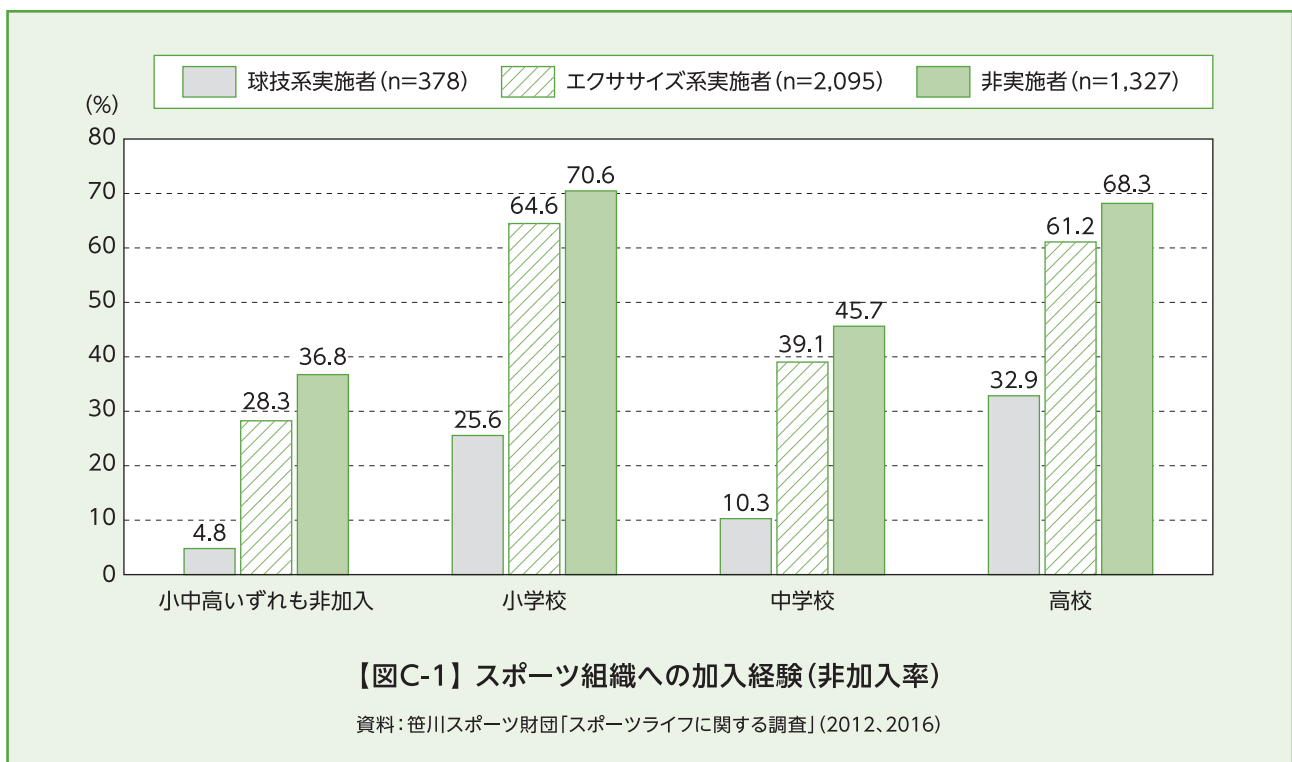
次に、各学校期においてスポーツ組織で実施していた種目をみた(表C-2)。なお、表内における種目名の後に記載した(運動部)は小中高の各学校期に学校運動部や体育会運動部で経験した種目を、(クラブ)はスポーツ少年団や、地域・民間のクラブやサークルで経験した種目を示している。

経験した種目の割合をみると、球技系実施者は10%を超える種目が複数ある一方、エクササイズ系実施者や非実施者は10%以下の種目が多く、特に小学校や高校ではほぼ5%以下となっている。すなわち、エクササイズ系実施者や非実施者は、スポーツ組織に加入して特定のスポーツを経験する機会が少なかったといえる。

経験した種目をみると、球技系実施者は、小学校から

運動部やクラブで「野球」や「サッカー」を実施している。中学校や高校では運動部活動で活動していた者が多くなり、種目も「バレーボール」や「バスケットボール」が加わる。このように、球技系実施者は、過去にも現在と同様の球技系種目を実施していた可能性が高いと推察される。エクササイズ系実施者と非実施者をみると、同様の経験種目のパターンがある。中学校や高校の運動部活動での「バレーボール」や「バスケットボール」の経験に加え、「テニス」や「卓球」といったのラケットを使用す

る種目の経験者が上位となる。しかし、「サッカー」や「野球」は上位種目にはみられず、球技系実施者との違いがみられた。すなわち、現在、球技系種目を実施している者は、中学校や高校でも球技系種目を実施していた可能性が高く、それらの種目を継続している可能性が高い。一方で、エクササイズ系実施者や非実施者は、「バレーボール」や「バスケットボール」を中学校部活動で経験しているものの、現在はその種目を実施していないといえる。



COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

- スポーツは絶対に必要なことだと感じるので、子どもたちがやりたいと思った時、大人たちが再びやってみようと思った時に、すぐに行動に移せるような環境が整っていると良いと思います。
(男性 36歳 技能的・労務的職業)
- 学生の時に色々なスポーツを体験して、その中で自分の好きなスポーツを見つけることができれば、生涯スポーツにつながると思います。また、大人になってから子どもと一緒に新しいスポーツに挑戦できるのも、楽しみの一つです。
(女性 43歳 パートタイムやアルバイト)
- もともと身体を動かすことは好きでしたが、結婚、出産を境に機会が少なくなり、最近やっと地域のサークルで身体を動かすようになりました。これからも自分の年齢に合った運動を見つけて、出来る限りやっていこうと思っています。
(女性 46歳 パートタイムやアルバイト)

【表C-2】 学校期におけるスポーツ組織での経験種目(上位5種目)

球技系実施者 (n=378)			エクササイズ系実施者 (n=2,095)			非実施者 (n=1,327)		
小学校時代			小学校時代			小学校時代		
	n	%		n	%		n	%
サッカー(運動部)	55	14.7	水泳(クラブ)	111	5.3	野球(運動部)	49	3.7
野球(運動部)	48	12.8	野球(運動部)	76	3.6	水泳(クラブ)	47	3.5
野球(クラブ)	48	12.8	ソフトボール(運動部)	53	2.5	陸上競技(運動部)	30	2.3
サッカー(クラブ)	31	8.3	陸上競技(運動部)	52	2.5	サッカー(運動部)	29	2.2
水泳(クラブ)	22	5.9	バスケットボール(運動部)	49	2.3	野球(クラブ)	26	2.0
中学校時代			中学校時代			中学校時代		
	n	%		n	%		n	%
野球(運動部)	69	18.4	バレーボール(運動部)	188	9.0	バレーボール(運動部)	128	9.6
サッカー(運動部)	55	14.7	バスケットボール(運動部)	151	7.2	テニス(運動部)	80	6.0
バレーボール(運動部)	50	13.3	陸上競技(運動部)	122	5.8	卓球(運動部)	71	5.4
バスケットボール(運動部)	41	10.9	卓球(運動部)	117	5.6	バスケットボール(運動部)	71	5.4
陸上競技(運動部)	17	4.5	テニス(運動部)	116	5.5	野球(運動部)	70	5.3
高校時代			高校時代			高校時代		
	n	%		n	%		n	%
サッカー(運動部)	52	13.9	バレーボール(運動部)	81	3.9	バレーボール(運動部)	56	4.2
野球(運動部)	49	13.1	テニス(運動部)	78	3.7	バスケットボール(運動部)	45	3.4
バレーボール(運動部)	28	7.5	バスケットボール(運動部)	67	3.2	テニス(運動部)	35	2.6
バスケットボール(運動部)	25	6.7	陸上競技(運動部)	58	2.8	野球(運動部)	31	2.3
テニス(運動部)	14	3.7	卓球(運動部)	55	2.6	卓球(運動部)	25	1.9

注) テニスは硬式と軟式どちらも含む。

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012、2016)

C-3 今後の運動・スポーツ実施の意向

現在の実施種目によって、今後の運動・スポーツに対する意識の違いはあるのだろうか。今後行いたい種目(希望種目)について分析した。

表C-3には、カテゴリー別に実施希望率の高い種目を示した。まず、「行いたい種目はない」と回答した割合に違いがみられる。非実施者は43.9%と4割が今後実施したい種目がないと回答した一方で、球技系実施者は10.4%、エクササイズ系実施者は8.3%にとどまり、エクササイズ系実施者が最も低い値となった。非実施者は「行いたい種目がない」の割合が4割程度と最も高いが、半数以上は何らかの運動やスポーツの実施希望があると捉えることもでき、実施に導くための方策が求められる。また、現在、運動やスポーツを実施している者の1割

程度が「行いたい種目はない」と回答している点は、運動・スポーツ推進における懸念事項となりうるだろう。

希望種目をみると、球技系実施者は1位「野球」、3位「フットサル」、4位「サッカー」と球技系種目が上位となり、エクササイズ系実施者では1位「散歩(ぶらぶら歩き)」、2位「ウォーキング」、3位「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」とエクササイズ系種目が上位となっている。つまり、現在実施している種目の継続希望が多いといえる。エクササイズ系実施者や非実施者は、過去のスポーツ活動歴において、球技系種目の経験者が少なく、希望種目においても上位にない。この結果からも、球技系種目の実施には過去のスポーツ経験の有無が関連すると推察される。

【表C-3】実施希望種目(上位10種目)

	球技系実施者 (n=378)			エクササイズ系実施者 (n=2,095)			非実施者 (n=1,327)		
	n	%	順位	n	%	順位	n	%	順位
散歩(ぶらぶら歩き)	18	4.8		853	40.7	①	250	18.8	②
ウォーキング	28	7.5		822	39.2	②	199	15.0	③
体操(軽い体操、ラジオ体操など)	5	1.3		505	24.1	③	105	7.9	⑤
筋力トレーニング	67	17.9	②	422	20.1	④	102	7.7	⑥
ヨーガ	18	4.8		369	17.6	⑤	108	8.1	④
水泳	35	9.3		312	14.9	⑥	82	6.2	⑦
ハイキング	12	3.2		292	13.9	⑦	56	4.2	
登山	31	8.3		256	12.2	⑧	50	3.8	
ジョギング・ランニング	40	10.7	⑩	232	11.1	⑨	63	4.7	⑨
釣り	43	11.5	⑧	223	10.6	⑩	75	5.7	⑧
ボウリング	52	13.9	⑦	219	10.5		62	4.7	⑩
ゴルフ(コース)	60	16.0	⑤	207	9.9		46	3.5	
行いたい種目はない	39	10.4		173	8.3		583	43.9	①
ゴルフ(練習場)	42	11.2	⑨	169	8.1		29	2.2	
バレーボール	56	14.9	⑥	43	2.1		30	2.3	
野球	72	19.2	①	42	2.0		34	2.6	
サッカー	62	16.5	④	29	1.4		33	2.5	
フットサル	64	17.1	③	22	1.1		18	1.4	

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012、2016)

まとめ

「スポーツライフに関する調査2012」において、「この1年間運動・スポーツを行わなかった」者である非実施者の割合が増加した。今回調査では、さらにその値が増加し、運動やスポーツに関わる者の割合が低下していることがうかがえる。これまで、運動・スポーツ実施率の上昇に寄与してきたウォーキングや散歩などのエクササイズ系種目の実施率も低下または横ばいとなっている。成人期以降のエクササイズ系種目の実施については、過去のスポーツ経験が関連するとはいえず、青少年期にスポーツ組織へ加入してスポーツを実施していなくとも、成人期

以降に散歩やウォーキングなどを実施することが示された。

一方で、球技系種目は過去にその種目の経験のある者が現在も実施していると想定され、青少年期に活動基盤が作られると考えられる。しかしながら、成人期における球技系種目の実施者は全体の割合からは少ない。青少年期の経験や体験を活かせる環境が整備されることで、成人期以降の球技系種目実施者の割合を高めることもでき、わが国特有の学校部活動での活動を活かせる生涯スポーツ社会が実現するのではないだろうか。

注1) 3つのカテゴリーは、対象者が重複しないように分類した。すなわち、球技系実施者の中でエクササイズ系種目を実施した者、反対にエクササイズ系実施者の中で球技系種目を実施した者は分析対象から除外している。

注2) スポーツ活動歴については、「スポーツライフに関する調査2012」においても調査した項目である。今回調査は2012年調査と同様の質問項目を用いており、本稿では2012年と2016年の結果を合成したデータを用いている。ただし、2016年調査は18歳以上を調査対象としているため、本稿では20歳以上を分析対象とした。